

中間株主通信

第33期 中間期 2019年4月1日～2019年9月30日



株主の皆様へ

「強いIPの創造」に向けた取り組みを推進.....01

決算ハイライト.....03 ニュース&トピックス.....05

株主の皆様へのお知らせ.....08 株式データ.....09 会社概要.....10

株主の皆様へ

「強いIPの創造」に向けた 取り組みを推進



代表取締役社長COO
黒岩 克巳



代表取締役会長CEO
松浦 勝人



代表取締役CFO
林 真司

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2020年3月期中間期の業績

当中間期の業績は、売上高が611億89百万円(前年同期比26.3%減少)、営業利益は6億88百万円(前年同期は営業利益37億12百万円)の営業損失、親会社株主に帰属する四半期純利益は17億62百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益15億84百万円)の純損失となりました。

売上高については、音楽事業における、パッケージ作品の販売が減少したこと等により減収となりました。また、営業利益については、音楽事業において、大型パッケージ作品の販売及びライブの公演数が減少したこと等により営業損失となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、営業損失を計上したこと等により純損失となりました。

セグメント別の状況

音楽事業は、大型パッケージ作品の販売及びライブ公演数の減少等により減収減益となりました。

アニメ・映像事業は、高単価のパッケージ作品の販売が増加したこと等により増収増益となりました。

デジタル事業は、映像配信サービスの会員数の減少等により売上高は減少したものの、売上総利益の向上や販促宣伝費の減少等により増益となりました。

「強いIPの創造」に向けて

当社グループは、「Entertainment×Tech×Global」をキーワードとして、エンタテインメント業界を取り巻く外部

環境の変化に対応し、新たな時代環境を勝ち抜く「強いIPの創造」への取り組みを推進しています。具体的には、有望なパートナーとの連携により、個人クリエイターの発掘・育成・支援のノウハウをグループ内で有効活用し、グループ全体でのヒット創出を目指しています。また、テクノロジーを活用し、ブロックチェーン技術やダイナミックプライシング、音声AR等の技術革新に伴う新たなクリエイティブの創出に挑戦するとともに、グローバルに展開できるコンテンツ及びアーティストの開発・育成に取り組んでいます。

通期の見通しと株主還元について

2020年3月期の通期見通しについては、営業利益72億円、親会社株主に帰属する当期純利益28億円と期初の予想どおりと見込んでいます。

株主還元については、連結配当性向35%以上、年間配当金の最低水準50円という配当方針を掲げており、当中間期の配当金を1株当たり25円とし、期末の配当金も25円(年間配当金1株当たり50円)とする予定です。

当社グループは、新たな時代環境を勝ち抜く「強いIPの創造」を実現し、エンタテインメントを通じて世の中に驚きと感動をお届けしてまいります。株主の皆様には、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年12月

代表取締役会長CEO 松浦 勝人

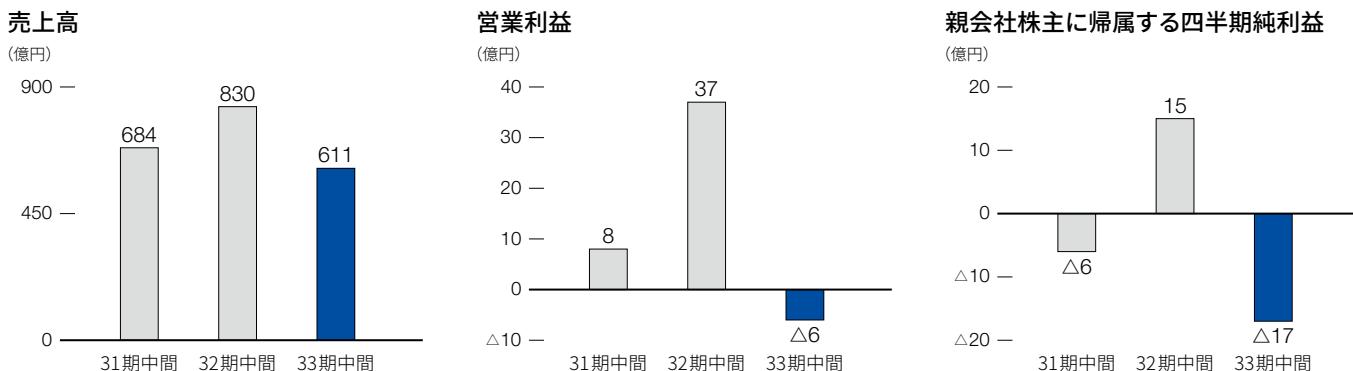
代表取締役社長COO 黒岩 克巳

代表取締役CFO 林 真司

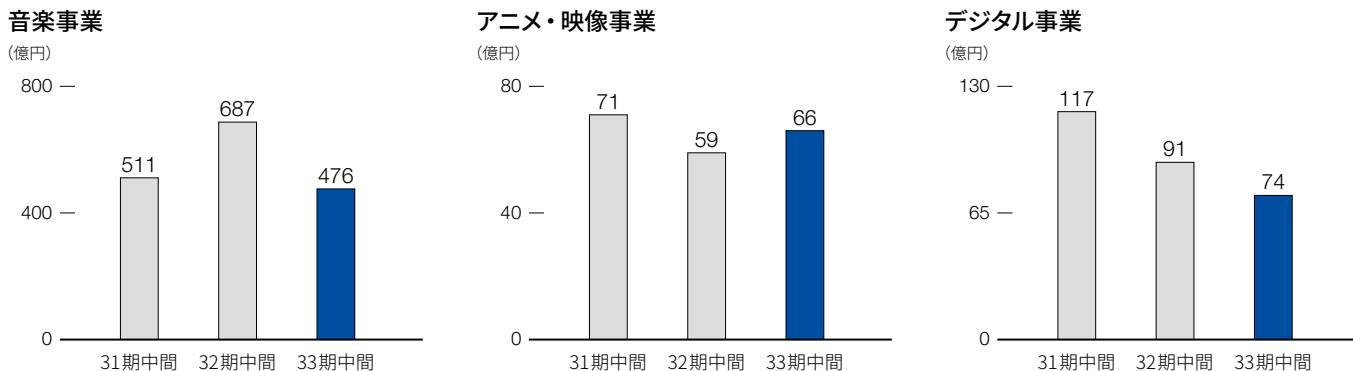
決算ハイライト

連結の中間業績は、音楽事業においてパッケージ作品の販売が減少したこと等により、売上高が611億89百万円(前年同期比26.3%減)となりました。営業利益は、アニメ・映像事業において映像パッケージ作品の販売が増加し、デジタル事業において販売費及び一般管理費が減少したものの、音楽事業において、大型パッケージ作品の販売及びライブの公演数が減少したこと等により6億88百万円(前年同期は営業利益37億12百万円)の営業損失となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、17億62百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益15億84百万円)の純損失となりました。

連結業績の推移



セグメント別売上高の推移



連結貸借対照表の要約

(単位：百万円)

	第32期 期末	第33期 中間
流動資産	58,047	51,721
固定資産	67,761	67,391
流動負債	64,272	62,056
固定負債	9,480	7,933
純資産	52,055	49,122
総資産／負債及び純資産	125,808	119,112

流動資産は、現金及び預金と売掛金の減少等により、63億26百万円減少しました。

流動負債は、短期借入金が増加したものの、未払金の減少等により、22億16百万円減少しました。

自己資本比率は、純資産の減少等により38.5%となりました。

中間配当金は、期初の予想どおり25円とし、期末配当金も25円の予想を据え置き、年間配当金は50円とする予定です。

連結損益計算書の要約

(単位：百万円)

	第32期 中間	第33期 中間
売上高	83,012	61,189
売上原価	60,067	44,658
売上総利益	22,945	16,531
販売費及び一般管理費	19,232	17,220
営業利益	3,712	△ 688
経常利益	3,778	△ 1,187
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,584	△ 1,762

その他の指標

1株当たり中間配当金

25.00円

自己資本比率

38.5%

ニュース&トピックス

「STAR ISLAND」®をグローバルに展開

2017年に東京からスタートし3年連続で1万5千人を動員、チケットが完売した「STAR ISLAND」®は、日本が世界に誇る“花火”と最先端テクノロジーの3Dサウンドやライティング、さらには最高峰のパフォーマンスがシンクロした世界初のエンタテインメントです。海外初進出となるシンガポール政府後援のアジア最大級カウントダウンイベント「MARINA BAY SINGAPORE COUNTDOWN 2019」において開催した「STAR ISLAND SINGAPORE COUNTDOWN EDITION」は2万人を動員、チケットが完売し2020年末までの3年連続開催が決定しています。また、サウジアラビアの建国記念日である2019年9月23日に開催した「STAR ISLAND SAUDI ARABIA NATIONAL DAY EDITION」では、会場周辺に約30万人が集まり、有料席チケットは開演前日に完売しました。日本のコンテンツを押し出すだけでなく、各国の文化や習慣を理解し、ローカライズすることで海外での公演を成功させてきました。日本のショーエンタテインメントが

海外で注目を集める例は多くありませんが、「STAR ISLAND」®は、その成功事例となるべく、今後もグローバルに展開できるコンテンツとして更なる進化を実現していきます。



STAR ISLAND SAUDI ARABIA NATIONAL DAY EDITION

ライブエンタテインメント分野でのダイナミックプライシングの導入を促進

三井物産株式会社の子会社で、需要と供給の状況に応じてチケットの価格を変動させるダイナミックプライシング事業を行うダイナミックプラス株式会社の株式を取得し、ライブエンタテインメント分野におけるダイナミックプライシングの導入に向けた提携に合意しました。ダイナミックプライシングは、AI技術を使い、チケットが購入される時期、需要、市況、天候等に関するビッグデータを最大限に活用することで、リアルタイムにチケットの価格を変動させる手法です。この業務提携を通じて、音楽・コンサート分野の更なる発展を目指してダイナミックプライシングの導入を促進していきます。また、多くの

お客様に適切な価格でチケットをお届けするとともに、チケットの不正転売の抑止にもその効果を期待する等、より高い体験価値を継続的にお客様に提供していきます。

 **Dynamic Plus**

次世代アニメ制作ツール「AniCast Maker (アニキャストメーカー)」の商用化を推進

動画配信サービスやSNS等の新たなメディアが普及したことで、エンタテインメントにおける消費スタイルは多様化し続けており、毎日無数のコンテンツが登場する中で消費サイクルが短くなり、即時性のあるコンテンツ提供が求められています。そのような中、エイベックス・テクノロジーズと株式会社エクシヴィは、2018年より、従来よりも短期間・小人数・低コストのアニメ制作技術を確立すべく、次世代アニメ制作ツール「AniCast Maker」の研究を行うプロジェクト「AniCast Lab. (アニキャストラボ)」に取り組んできました。2019年11月には、新会社「株式会社AniCast RM」を設立し、株式会社エクシヴィと共同で「AniCast Maker」に係る特許の管理を行い、

アニメ制作手法のひとつとして、その商用化をエイベックス・テクノロジーズが中心となり進めていきます。

AniCast Lab.
XVI × avex

デジタルコンテンツに証明書を付与する技術「A trust」を開発

「A trust」は、ブロックチェーン技術を活用したデジタルコンテンツに証明書を付与する仕組みで、購入者は証明書付きのデジタルコンテンツを所有できるようになります。また、決済については法定通貨を用いてブロックチェーン上に証明書を発行できる仕組みを構築しており、既存のデジタルコンテンツの販売プラットフォームにも適用可能になります。2019年8月には、デジタルコンテンツを販売する「Gugenka® MarketPlace」にて、VTuberとしても活躍するマルチクリエイター「東雲めぐ」の直筆、10枚限定のデジタル版画に「A trust」が初採用され、デジタルであっても高付加価値商品や希少品として消費者の支持を得ることができ、売上が伸びました。今回の販売はGugenka®とエイベックス・テクノロ

ジーズの共同実証であり、2020年上半期には本格的な運用を予定しており、利用範囲の拡大によるデジタルコンテンツの価値向上を目指し、IPホルダーの皆様へのシステム提供も行っていく予定です。

A trust



10枚限定のデジタル版画

ニュース&トピックス

個人クリエイターの発掘・育成・支援を積極的に推進

近年、YouTuber等ネットで人気を集める「個人クリエイター」のコンテンツが大きな影響力を持ち「個人メディア化」の動きが広がっています。今後も通信環境の更なる高速化等に伴い、インターネット上の動画コンテンツの流通が拡大し、そこで活躍するクリエイターも増加することから、多数の人気者が生まれると予測されます。そのような中、当社は、ライブ配信・YouTuber事業を展開する株式会社TWH、株式会社MAKEYを子会社化し、またインフルエンサー育成に特化した教育事業を展開するエイバックス & CJTV Influencer 株式会社を設立してきました。2019年11月には、個人クリエイターが所属する株式会社LIVESTARを子会社化し、個人

クリエイターの発掘・育成・支援のノウハウをグループ内で有効活用することで、当社グループ全体でのヒット創出を目指していきます。

[LIVESTAR所属ライバー]



三浦みゆら

知念蓮

ふくだみみ

りょーやん

電通ライブ、バスキュールと音声AR事業で連携し、音声ARコンテンツの制作、プラットフォーム開発で相互協力

エイバックス・エンタテインメントは、株式会社電通ライブ、株式会社バスキュールと、XR領域における音声AR事業で連携し、音声ARコンテンツの制作、プラットフォーム開発での相互協力をスタートしました。今回の事業連携では、3社の強みを活かすことで、音声ARを社会に啓発し、企業・自治体が簡単に音声ARコンテンツを作成・運用管理でき、誰もがストレスなく音声ARコンテンツを体験できる仕組み(エコシステム)の構築を目指します。具体的には、訪日外国人旅行者への音声による観光ナビゲーションコンテンツの提供や、音声によるスタンプラリーや聖地巡礼等のアミューズメントコンテンツの提供、視覚障がい者に対するアクセシビリティ向上を目的とした音声ガイドの提供等、内閣府が提唱するSociety 5.0を見据えた多層的な社会インフラとして、さまざまな企業・自治体と連携し、音声ARの普及を加速させていきます。事業連携の最初の

取り組みとして、2019年10月より、和歌山市の無人島「友ヶ島」の観光活性化を目的とした音声ARによる島内観光ガイドアプリ「友ヶ島」をリリースするとともに、「友ヶ島第3砲台美術館」を開館しました。



友ヶ島第3砲台美術館

株主の皆様へのお知らせ

当社では、基準日(毎年3月31日)現在の株主の皆様を対象に、保有株式数・保有年数に応じて株主優待を実施しています。
(当社コーポレートサイト内「株主優待」のページからもご確認いただけます。)

株主優待内容(第32期実績)

「a-nationチケット優先予約制度」*

夏のライブイベント「a-nation」のチケットを一般販売に先がけてお申込みいただける制度であり、保有株式数・保有年数に応じた割引もあります。

*「a-nation」の開催内容、チケット価格、割引率等は年度によって異なりますので、予めご了承ください。

割引率

保有株式数 \ 保有年数	3年未満	3年以上	5年以上	10年以上
100株以上300株未満	0%	10%	20%	30%
300株以上1,000株未満	10%	20%	30%	40%
1,000株以上	20%	30%	40%	50%



a-nation 2019大阪公演

「株主限定スマプラミュージック」*

「株主限定スマプラムービー」*の進呈

当社株式を100株以上保有する株主様に、年間のヒット曲、話題曲を収録した非売品の「株主限定スマプラミュージック」と、ライブ映像や映像配信サービスのオリジナル動画コンテンツを収録した「株主限定スマプラムービー」をお送りしました。

*「スマプラミュージック」「スマプラムービー」はスマートフォン、タブレットやパソコンでコンテンツが楽しめるサービスです。*パソコンではスマプラミュージックのみ対応。



株式データ (2019年9月30日現在)

株式情報

発行可能株式総数：**184,631,000株**

発行済株式総数：**45,223,600株**

1単元の株式数：**100株**

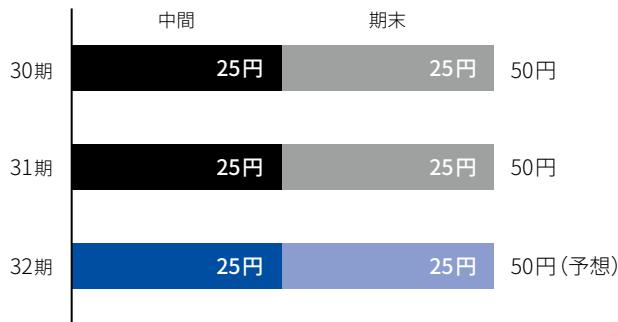
株主数：**27,161名**

大株主(上位10名)

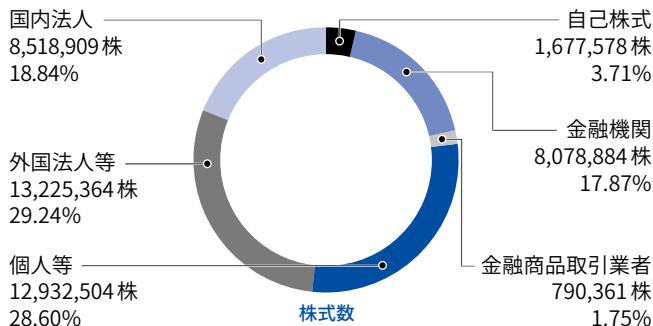
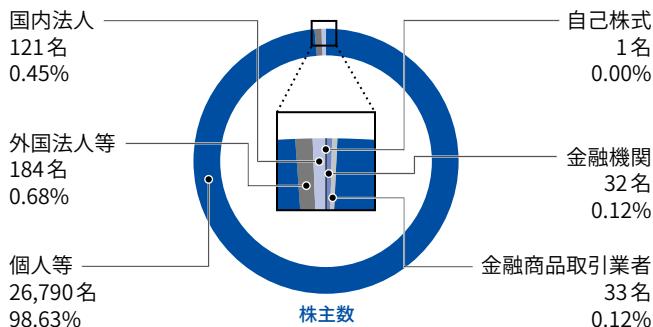
株主名	持株数
株式会社マックス2000	2,300,000株
有限会社ティーズ・キャピタル	2,250,000株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,212,700株
株式会社サイバーエージェント	2,000,000株
GOLDMAN, SACHS & CO. REG	1,803,533株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,763,900株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1,412,700株
小林 敏雄	1,157,818株
株式会社第一興商	1,020,000株
THE BANK OF NEW YORK-JASDECTREATY ACCOUNT	876,300株

注) 1. 上記以外に当社保有の自己株式1,677,578株があります。
 2. 株式会社マックス2000は当社代表取締役会長CEO松浦勝人が代表取締役を務めています。

配当の推移



株式分布状況



会社概要 (2019年11月1日現在)

会社名	エイベックス株式会社 Avex Inc.
本社所在地	〒107-8577 東京都港区南青山三丁目1番30号 エイベックスビル
設立年月日	1988年(昭和63年)4月11日
資本金	43億9,223万1,500円
従業員数	196名 (グループ従業員数1,530名)
取締役	代表取締役会長CEO 松浦 勝人 代表取締役社長COO 黒岩 克巳 代表取締役CFO 林 真司 取締役(非常勤) 見城 徹 社外取締役 安藤 浩之* 社外取締役 大久保 慶一*
監査役	常勤監査役 岩田 真吉 常勤監査役 小林 伸之 社外監査役 玉木 昭宏* 社外監査役 山本 照雄*



コーポレートサイト
<https://avex.com>



アーティスト、商品等のポータルサイト
<http://avexnet.jp/>

* 東京証券取引所が一般株主保護のため確保することを義務付けている独立役員です。



エイベックス株式会社

〒107-8577 東京都港区南青山3-1-30 エイベックスビル

Avex Inc.

Avex Building, 3-1-30 Minami-Aoyama, Minato-ku, Tokyo 107-8577, Japan

●この冊子に関するお問い合わせ先

エイベックス株式会社

経営管理本部 経営企画グループ <https://avex.com/jp/ja/contact/ir/>

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
中間配当金 受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711(通話料無料) 郵送先 〒137-8081新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第1部(証券コード:7860)

ご案内

公告の方法

電子公告により行います。

公告掲載URL <https://avex.com/jp/ja/public/koukoku/>

(ただし、電子公告によることができない事故、そのほかのやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告します。)

株式の手続き

- 証券会社の振替口座でお持ちの株式 > 口座を開設している証券会社にお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式 > 上記特別口座の口座管理機関、もしくは同機関の全国支店までお問い合わせください。

配当金計算書について

同封した「配当金計算書」は、配当金額のご確認にご利用いただけます。

なお、配当金を証券会社の口座でお受け取りの方は、同証券会社にてご確認ください。